

事業所名		児童発達支援のびっとANO-ANO				支援プログラム				作成日		令和7	年	1	月	16	日	
法人（事業所）理念		障がいがあっても一人の人間としてその人なりに幸せな人生があるべし																
支援方針		たくさんの経験と人との関わりを大切にしながら、各専門職と連携を図り、個別から小集団まで一人ひとりの発達に合った療育を行う。																
営業時間		平日	8	時	00	分から	19	時	00	分まで	送迎実施の有無	あり	なし	※住所により要相談				
		祝日	8	時	30	分から	17	時	30	分まで								
		支 援 内 容																
本人支援	健康・生活	・健康状態の把握と対応：毎日の体温チェック、体調チェックを行い、連絡帳で自宅での健康状態の把握、看護師と連携し対応を行っている。 ・生活に必要な基本的技能の獲得：管理栄養士や言語聴覚士、作業療法士と連携し児童に合った食事形態での食事提供と動作を見つける。 ・構造化等による生活環境の調整：ロッカーに児童の名前でイラストをつけて分かりやすく片付けできるように見える化し生活スキルの向上を図る。																
	運動・感覚	・姿勢と運動、動作の基本的技能の向上：バランスストーンやトンネル遊びなどを活用し身体の使い方、筋力アップに繋げていく。 ・感覚の特性への対応：砂遊びや植物など自然を使った創作活動を通して季節に応じた感覚を育んでいく。（感覚の偏りに対する環境調整等）																
	認知・行動	・対象物や外部環境の適切な認知と適切な行動の習得：パズルや知育玩具などを使用しながら色や形、音や声の理解を支援する。 ・認知の特性についての理解と対応：個別活動や小集団への適応力向上																
	言語 コミュニケーション	・言語の需要及び表出：信頼関係作りを図りながら、意思表出を引き出していく（言語的コミュニケーション、非言語コミュニケーション） ・コミュニケーションの基礎的能力の向上：場面に応じたジェスチャーや仕草、表情や態度を繰り返し伝え支援する。																
	人間関係 社会性	・遊びを通じた社会性の発達：季節の行事、ままごとなどのごっこ遊び、大人との関わり・スキンシップ（愛着形成） ・仲間づくりと集団への参加：ひとり遊びから小集団へ遊びや過ごし方の対人関係の幅を広げていく。																
家族支援		・家族の子育てに関する困りごとに対する相談 ・必要に応じて連絡帳でのやり取りを行う。									移行支援		保育園やこども園の利用について適宜情報共有。 事業所間での年齢に応じた移行。					
地域支援・地域連携		利用児童が通園する園に訪問、適宜行われる会議等に参加し各関係機関連携を図る。									職員の質の向上		外部講師によるOJT（月1程度） 勉強会					
主な行事等		季節に応じた行事（七夕、ハロウィン、クリスマス、お正月（もちつき）、節分、ひなまつり等） 事業所全体行事（ふれあいひろば等）																